

幕府打倒に尽力した、後醍醐天皇の皇子、大塔宮護良親王である。際立っ



「大塔宮護良親王出陣図」

男性が仕をするよう

になるのはいつころからなのか。江戸時代中期のび公家階級を中心に、明治の初めまで行われた「貞丈雜記」には、平安時代末期、鳥羽天皇の頃、花園の左大臣と呼ばれた源有仁が洒落もので眉を抜いて、お齒黒が通つて見えるかももしや白粉、そして紅を付け

室町時代には、お齒黒や眉化粧は公家だけでなく、武士でも行うものが現れ、江戸時代以降は再び治の初めまで行われた。伝統を重んじたので安時代末期、鳥羽天皇の頃、花園の左大臣と呼ばれた源有仁が洒落もので眉を抜いて、お齒黒が通つて見えるかももしや白粉、そして紅を付け

文化

愛用のカメラ、ライカを手手に、世界中の人々の写真を撮り続ける、20年ほどになる。回った国は

が、今は先住民を撮ることに軸足を置いている。関心は幼いころからあった。亡父は登山家兼環境学者としてマラヤのヌパチェに初登頂したヌパチェだった。その際ガイドをしたネパールの少数民族、シエルバ族の写真が実家にある、子どものころにそれを見て

幼心に「顔が生きているようにしているな」と感じていた。これまでに、中国やベトナム、ミャンマー、タイ、カンボジア、東アジア、東南アジア、中南

先住民の暮らし「切り撮る」

◇中南米などの村に潜り込み「音」におも写真に◇

西田 擁平



文明が栄えたところから遠く伝統がまだに色濃く感じられる国だ。首都のグアテマラ市は都会なので別だが、少し郊外に行くと、「マイヤ」と呼ばれる、マヤ文明から伝わるといわれる民族衣装をほとんどの人が着ている。文様は亀甲柄、幾何学模様など様々

幼い音楽に関心。日本では音楽ライブのブロードキャストや舞台の演出、作業などを幅広く手掛けている。写真家としての活動もその一つだ。初めはパリやニューヨークなどを回り、街に人々を撮影していた



グアテマラの伝統的な民族衣装を着た子ども(筆者撮影)

グアテマラの伝統的な民族衣装を着た子ども(筆者撮影)

を伴わずに単身で行くため、知識があれば、どの村の衣装か一目で分かる。興味深いことに、ある村の衣装の柄が、ベトナムの民族衣装の柄と

「親友」と人の誉れ高いキャリア官会うことがな。文系の銀行員出身である。心友「米」である。丸善石油化学社長の藤井シュン君とは高校と浪つ今の会社で、先代社長を継いで大学1年生まで同級生に暮らして、ボート部の仲間として、今春が会社

心友

△△△

△△△

△△△

△△△

△△△